

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 SIL札幌日本語学校

1 事業の趣旨・目的

道内在住の外国人に対して、生活者としての目線を通じて、緊急時の日本語と日本の習慣をより容易に指導するための実践的なスキル研鑽を目指す。

具体的には、

- ・ 緊急時(急病・事故、火事、地震、避難など)の対処
- ・ 生活を取り巻く諸問題
- ① 日常生活において生じる問題点(住宅、水道・電気・ガス等、電話、郵便、金融機関、交通機関、税金・福祉、医療、育児、教育、ゴミ、自動車免許、冬季の除雪など)
- ② 法律上の手続き及び相談(外国人登録、結婚・出生、印鑑登録など)をとり上げた。

毎回の講座では外国人への情報伝達の場面を想定して、いかに分かり易く、効果的に付与できるかを、実践的且つ参加者が相互に研鑽するものとした。

2 企画委員会の開催について

【概要】講座開講までに3回、開講中2回、終了後1回開催。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成21年 6月21日(日)	SIL札幌 日本語 学校	大野修 木本みゆき 島 治美 鈴木博子 外山静江	・講座開講の方針 ・実施内容・回数の検討 日時、会場選定、募集 方法検討	委託事業の実施に関し て、講座の方針、内容を 検討確認、又会場選定や 周知方法について討議。 テキスト作成を至急開始 することに合意した。
平成21年 7月4日(土)	〃	大野修 木本みゆき 島 治美 鈴木博子 外山静江	・講座内容及びテキスト について ・募集チラシ作成、募集 日程、周知方法につ いて	講座シラバスとテキスト 内容を合致させるため検 討を重ねた。募集チラシ にどのような項目を盛り 込むか、どのような周知 方法があるかなどについ て検討。方向を定めた。

平成 21 年 9 月 1 日(火)	〃	Petia 佐々木 木本みゆき 島 治美 鈴木博子 外山静江	・募集経過報告・講座内 容・外部有識者講演 依頼・講座について	募集経過報告、開講まで の作業項目について検 討。外部有識者への講演 依頼とその内容について 話し合った。
平成 21 年 12 月 3 日(木)	〃	Petia 佐々木 木本みゆき 島 治美 鈴木博子 外山静江	・講座途中経過報告・ア ンケート・模擬実習につ いて	講座経過報告、及び模 擬実習を行うにあたって の具体的な手順、指導 留意事項を検討。併せ て、アンケートの内容、 作成日程などについて 合意した。
平成 22 年 1 月 13 日(水)	〃	Petia 佐々木 木本みゆき 島 治美 鈴木博子 外山静江	・アンケート・模擬実習・ 修了要件について	講座の進捗状況を確認 し、模擬実習のための 準備、アンケート内容、 及び修了要件について 検討した。
平成 22 年 2 月 3 日(水)	〃	Petia 佐々木 木本みゆき 島 治美 鈴木博子 外山静江	・講座についての評価、 改善点などの検討	応募、参加者募集、全 16 回の講座内容など全 般にわたる改善点に関 して意見を交わした。ア ンケートを元にして、成 果、反省点、この講座を 生かして計画可能なこ とについて意見を述べ合 い合意に至った。

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)

3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 日本語ボランティアを対象とした実践的研修
「こんな時どうしますか」
- (2) 研修の目標 外国人にどのような方法で緊急時の対処法、及び情報を教えらるるか
- (3) 受講者の総数 17 人 (2名は、都合により後半以降欠席)
- (4) 開催時間数(回数) 48 時間 (16 回)
- (5) 参加対象者の要件 日本語ボランティアとしての活動歴二年以上
- (6) 受講者の募集方法
 - ① 市内各公共施設約60ヶ所に募集要項・チラシを置き、周知を図る。
 - ② 道内・市内の国際交流ボランティア団体にチラシを郵送もしくは電話にて周知を図る。
 - ③ 道内各大学国際交流課に案内チラシを送付もしくはメーリングリストを通じての送信を依頼し周知を図る。
 - ④ 当校のホームステイ・ネットワーク、イベント・ボランティア・ネットワークに周知を図る。

(7) 研修会場

ア 講義 札幌市民ホール 第4会議室

イ 実習 同上

(8) 使用した教材・リソース

SIL札幌日本語学校作成「緊急時の会話集」、『日本語教育能力検定試験に合格するための社会言語学10』『みんなの日本語Ⅰ、Ⅱ』、「やさしい日本語」に関するインターネット・サイトなど

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
第1回 10月3日(土) 13:00～16:00	講演 「日本語ボランティアの課題」 (1)研修 日本人との付き合い方① 「挨拶」とは何か やさしい日本語① どんなことばを使うか	後藤 道 (財)札幌国際プラザ 島 治美 木本 みゆき	15人
第2回 10月10日(土) 13:00～16:00	講演 「日本の生活で困ったこと」 (2)研修 日本人との付き合い方② やさしい日本語② 話すスピードについて	Petia 佐々木 北海道大学工学部 島 治美 木本 みゆき	14人
第3回 10月17日(土) 13:00～16:00	講演 「防災の心得」 (3)研修 緊急時の対処の仕方を考える①－救急医療・火事 119番 シンプルな日本語への言い換え	細川 雅彦 (財)札幌市防災協会 島 治美 木本 みゆき	14人
第4回 10月24日(土) 13:00～16:00	(4) 研修 緊急時の対処の仕方を考える②－事故・犯罪	島 治美 木本 みゆき	15人
第5回 10月31日(土) 13:00～16:00	(8) 研修 生活の問題点②－電気・ガス・水道	木本 みゆき 外山 静江	10人
第6回 11月7日(土) 13:00～16:00	(7)研修 生活の問題点① －ごみ問題	木本 みゆき 外山 静江	13人

第7回 11月14日(土) 17:30～20:30	(11) 研修 生活の問題点④ ー交通機関 市内の交通機関で使用できるカードなど	木本 みゆき 島 治美	12人
第8回 11月21日(土) 13:00～16:00	(5) 研修 緊急時の対処の仕方を考える③ー紛失 110番	島 治美 木本 みゆき	15人
第9回 11月28日(土) 13:00～16:00	(9)講演 「外国人の日本 在留にまつわる諸手続き」 研修 法律上の手続き	菊地 利夫 キクチ労務行政事務所 木本 みゆき 鈴木 博子	15人
第10回 12月5日(土) 13:00～16:00	(6) 研修 緊急時の対処の仕方を考える④ー地震・水害・避難	島 治美 鈴木 博子	11人
第11回 12月12日(土) 13:00～16:00	(10) 研修 生活の問題点③ー郵便・銀行・電話	木本 みゆき 外山 静江	13人
第12回 12月19日(土) 13:00～16:00	(12) 研修 生活の問題点⑤ー冬季のトラブル	島 治美 鈴木 博子	13人
第13回 1月9日(土) 17:30～20:30	(13) 研修 生活の問題点⑥ー福祉・健康・税金	木本 みゆき 島 治美	12人
第14回 1月16日(土) 13:00～16:00	(14) 研修 生活の問題点⑦ー育児・教育	木本 みゆき 島 治美	15人
第15回 1月23日(土) 13:00～16:00	(15) 模擬実習 日本人との付き合い方③ (冠婚葬祭)	」 島 治美 木本 みゆき 外山 静江	13人
第16回 1月30日(土) 17:30～20:30	(16) 模擬実習 日本人との付き合い方④ (冠婚葬祭)	木本 みゆき 島 治美 鈴木 博子	15人

講座は一方的な講義ではなく、毎回課題を取り上げ、ワークショップ形式で、全員がグループに分かれて意見を述べ合い、それを発表した。又、グループ毎に、外国人学習者と日本人ボランティアの役割をし、課題の情報をシンプルな日本語で教える作業、そのフィードバックも多く行った。

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

ワークショップ形式をとった講座の評価は、「皆の意見も聞き、考え、問題を解決する方法で大変有意義だった。講座は中身が濃く、有意義でとても楽しかった。」という意見に集約された。又、

- a) 今回の講座で今までのボランティア活動の中で気がつかなかった点を気づかされた、ことばの不自由な外国人にもっと心を寄せなければならないと思った。
- b) 今回のように生活面での外国人を支援する方法だけでなく、日本語文法や、ボランティア日本語教室での教え方の勉強をしたい。
- c) 内容が飽きることなく充実していて、あっという間の4ヶ月だった。今後ボランティアの教室での授業等に生かしたいと思う。
- d) 簡単な日本語を使うということは頭でわかっていてもつい普段の日本語をつかってしまっているということを自覚できた。

などのコメントがあった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

いわゆる日本語学校の教員養成講座とは違い、日本語ボランティアに教える特有な理念・内容を選定することは大変難しかったが、様々な場面を想定しシラバスを決定した。結果、生活者としての外国人支援というテーマにおいては、受講生のニーズにきっちりと合致したようであった。取り上げた内容もワークショップ形式の講座も大変喜ばれ、当校にとっても非常に有意義な事業であった。

受講者は、ほとんど全員が日本語教師養成講座修了生だったが、普段のボランティア活動ではそれほど各自使用する言葉に制限を持って活動していなかったため、「より簡単な日本語」の実際の意味がなかなか明確に捉えられなかった。しかし、講座終了近くにそれが把握でき、意識の上での目覚しい進歩が見られた。訓練を続ければ、今後の指導に不足なく利用できるようになるだろうと思われた。以上のことから、同様の講座構成時には、もう少し「より簡単な日本語」の基礎的知識確認と実践を組み入れるようにするのが課題ではと思われた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

外国人が地域に容易に溶け込めるよう、かつ緊急災害時などに日本人に対するのと同様な情報を得られるよう、そして決して無駄に命を落としたりしないために、ボランティアの方々の協力を得ることは非常に重要である。今回の受講生のようなやる気あふれる熱心なボランティアに「日本語ボランティア」としての意識・指導テクニックのより一層の向上をめざしてもらいたい。その裾野を広げるためにも、道内各地において、ボラ

ンティア対象の同様な講座を開講する必要性を感じた。平成 22 年度も文化庁の委託事業に応募する予定である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

今回の講座でボランティアそれぞれが他のボランティア団体と交流を持ち、情報交換等をはじめようになった。イベント、バザーなど地域でのボランティア同士の協力体制が整うきっかけとなったと思われる。当校からも講師、学生がボランティア活動により多く参加する取っ掛けとなるだろう。

② 研修後の人材活用

今回の受講生から、所属するボランティアグループの活動に、今回の講座内容を取り入れたいとの申し出があった。主として日本語の文法や日常会話を教える意識のみで、展開をしていたボランティア活動者の視野が今後新たな方向へ開けていくのではと思われる。又、今回受講したボランティアの指導により、新規にボランティアを開始する人材にも緊急時の日本語指導についての知識や心構えが広まるとと思われる。

(12) 今後の課題

① 日本語ボランティアに興味がある様々な人たちに今回の講座開講を周知徹底できないのが残念であった。理由としては、開催場所を抽選で決めるため、抽選日を待つからでなければ、チラシやポスターが作成できなかったこと、そのため、募集の締め切りまでに時間がなかったこと、多くの人の目に付く募集をかける方策があまり無かったことなどだった。今後、これらの課題をクリアするよう努力したい。

② 北海道内、札幌市内の緊急時における外国人対策はまだほとんど確立されていない。日常生活におけるゴミ処理の各区域の日程表も日本語版しか発行されていなかった。今後はこれらの点の改善も提案したい。